

平成 23 年度各種委員会報告

I. 学術集会

1. 学術委員会

委員長 杉 原 健 一

本委員会では、主に定期学術集会のプログラムについて検討している。

第 112 回の特別企画や上級演題のテーマについては、本委員会で審議し、決定された。来年の第 113 回のプログラムについても、本会として継続的に扱う特別企画のテーマや分野別のバランスなどを考慮して検討している。

II. 教育

2. 教育委員会

委員長 上 本 伸 二

1. 卒後教育セミナーについて（資料1）

- 1) 第79回は「胸腹部の低侵襲（内視鏡）手術の現状」のテーマで、昨春、第111回定期学術集会（名川 弘一前会頭）と同様に東日本大震災の影響で紙上開催となった。
- 2) 第80回は「外傷外科」のテーマで、昨秋第73回日本臨床外科学会総会の青木達哉前会長にお世話いただき東京都にて開催した（参加者575名）。
- 3) 平成24年度の実施計画としては、第81回を「臓器移植の現状」のテーマで、4月14日に資料1の如く、宮崎勝会頭のお世話で開催する。
- 4) 第82回は「手術用医療機器の基礎と臨床—適応と限界まで—」のテーマで、今秋第74回日本臨床外科学会総会の呉屋朝幸会長にお世話いただき開催する予定である。

（資料1）

第81回卒後教育セミナー（平成24年度春季）

日 時：平成24年4月14日（土）14:40～17:00

（第112回日本外科学会定期学術集会3日目）

場 所：幕張メッセコンベンションホール A・B（千葉県千葉市）

世話人：宮崎 勝（第112回日本外科学会定期学術集会会頭、千葉大学臓器制御外科学）

企 画：上本 伸二（日本外科学会教育委員長、京都大学肝胆膵・移植外科）

テーマ：臓器移植の現状

1. 腎臓移植

司会：国際医療福祉大学熱海病院移植外科 寺岡 慧
講師：大阪大学先端移植基盤医療学 高原 史郎

2. 膵臓移植

司会：福島県立医科大学臓器再生外科 後藤 満一
講師：国立病院機構千葉東病院消化器・移植外科 剣持 敬

3. 日本臓器移植ネットワーク

司会：榊原厚生会榊原サピアタワークリニック 小柳 仁
講師：社団法人日本臓器移植ネットワーク理事 小中 節子

4. 心臓移植

司会：東京大学重症心不全治療開発講座 許 俊鋭
講師：大阪大学重症臓器不全治療学 福寫 教偉

5. 肺移植の現状

司会：東北大学呼吸器外科 近藤 丘
講師：京都大学呼吸器外科 伊達 洋至

6. 小腸移植の現状

司会：京都大学肝胆膵・移植外科 上本 伸二

講師：東北大学小児外科 和田 基

7. 外科医が知っておきたい肝移植の現状

司会：大阪大学消化器外科 梅下 浩司

講師：旭川医科大学消化器病態外科 古川 博之

卒後教育セミナーは、本学会外科専門医制度規則施行規定により指導医の選定申請（春季は定期学術集會に参加しなかった場合のみ）及び更新申請，外科専門医の更新申請，認定登録医の暫定登録及び更新（10単位）の際の研究実績に加算することができる旨，周知方お願いしたい。

2. 映像による私の手術手技—ビデオライブラリーについて（資料2）

平成24年度の「映像による私の手術手技（最新手術シリーズ）」は資料2の6名に決定した。最新手術シリーズは第111回定期学術集會のビデオ演題から10演題程度を選定予定であったが、紙上開催となったため、最新手術シリーズの選定は行われなかった。また、来年度より制作補助費は標準手術シリーズが一人30万円から20万円と減額し、余った金額を今後の最新手術シリーズ（制作補助費：1人10万円）の収蔵が増えた場合に充てることとした。

昨年は、全作品（210本、うち特別ビデオセッション：4本）のDVDを1本5,000円（うち特別ビデオセッション：1本10,000円）で頒布し、240本（うち特別ビデオセッション：57本）の申込があった。

（資料2）

映像による私の手術手技 標準手術シリーズ

1. 小児肝前性門広症に対する脾部分切除・選択的脾腎脈シャント術
名古屋大学小児外科 安藤 久實
2. 右開胸，HALSによる，胸部食道癌に対する3領域郭清術式
虎の門病院消化器外科 宇田川晴司
3. 高齢者ハイリスク大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術
大阪大学心臓血管外科 澤 芳樹
4. 右心房内に腫瘍栓が進展した肝細胞癌に対する肝切除術
愛知医科大学消化器外科 野浪 敏明
5. Segmental Arterial Mediolysis (SAM) に起因する腹部主要動脈動脈瘤に対するHybrid Surgery
理念に基づく外科治療
札幌医科大学第1外科 平田 公一
6. 頸胸腹部三領域リンパ節郭清を伴う右開胸開腹食道癌根治術
東海大学消化器外科 幕内 博康

3. 生涯教育セミナーについて

- 1) 平成23年度は「機能温存手術の適応と限界」のテーマで開催した。全国7地区で合計711名が受講され順調に実施された。
- 2) 平成24年度のテーマは「緩和医療」で開催される。

4. 病院間医師交流による若手外科医師の教育プロジェクトについて

若手外科医師の手術を含めた外科診療能力の向上のためには、現在指導を受けている施設での修練だけに満足することなく、複数の施設での外科修練を受けることが、広い視野で外科学を学ぶこと、最前線の救急外科医療を学ぶこと、専門性の高い高度医療を学ぶことなど若手外科医師の教育に大きく貢献出来ると考えられる。

本プロジェクトは外科専門医を取得した若手医師が、参加を了承された本会指定・関連施設（約 440 施設）の教育コースを選び申込を行っていただくようになっている。

実際に 3～6 ヶ月程度の修練をした場合には、交通費や宿泊費の一部を本会が負担するが、参加施設の一覧や詳細はホームページをご覧ください。

平成 24 年度の申請期間は、平成 24 年 2 月 1 日～平成 25 年 1 月 31 日までとなっている。

5. 外科専門医修練カリキュラムの到達目標について

専門医を目指す若い会員が外科専門医修練カリキュラムにある腫瘍学や栄養・代謝学などの「到達目標」を理解出来るように、各学会のセミナーを低料金で参加できるような検討をしたが、まずは本会卒業教育セミナーのテーマの幅を広げ対応していくこととなった。

6. ATOM コース (Advanced Trauma Operative Management) について

本会が受講者募集案内に協力している ATOM コースは、順調に開催しており、平成 23 年度の応募は 71 名で、うち 36 名が受講し、今度も継続して受講者募集案内に協力していくこととなった。

3. 専門医制度委員会

委員長 榎野 正人

1. 外科専門医制度に National Clinical Database (NCD) のデータを利活用するため、種々の整備を行い、周知を徹底した(次頁以降参照)。また、本会の術式データと、NCD の術式データの相互紐付作業も行った。
2. 平成 24 年度から、NCD データの利活用や、外科専門医更新の延長・猶予・再取得の規定の運用などが開始されるので、「外科専門医修練カリキュラム」の該当部の改定を行った(新しい「外科専門医修練カリキュラム」は巻末に掲載)。
3. 一般社団法人移行に伴い、定款委員会から上程された一般社団法人日本外科学会の「外科専門医制度規則」「外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定」「外科専門医制度の指導医に関する施行規定」「外科専門医制度の修練施設に関する施行規定」をそれぞれ議決した。
4. 他の業務は次のとおりである。
 - ①前例に倣って各種の問合せに対応した。
 - ②日本がん治療認定医機構の関連学会連絡委員会や、日本消化器外科学会の消化器外科関連専門医制度協議会などに参加した。
 - ③平成 23 年の東日本大震災の影響を鑑み、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構の要請を受け、平成 23 年 4 月開催の第 39 回日本血管外科学会学術総会に出席しなかった場合に限り、平成 23 年 10 月開催の第 52 回日本脈管学会総会の出席を研修実績の代替として認めることとした。

*** 修練医／指導責任者向け周知文（外科専門医新規取得用）**

平成 23 年 12 月

修練医／指導責任者 各位

社団法人日本外科学会
理事長 里見進
専門医制度委員長 椰野正人

【診療（手術）経験の登録に関する重要なお知らせ】

平成 23 年 1 月から、一般社団法人 National Clinical Database（NCD）の事業が開始されたことに伴い、「外科専門医修練カリキュラム」改定のお知らせと併せて、以下の会告を掲載しておりました。

「※外科専門医の取得を目指す修練医は、必ず以下の点も確認してください。」

NCD の開始に伴い、平成 23 年 1 月 1 日付以降の手術症例については、外科専門医取得のための病歴抄録の登録と同時に、必ず NCD にも登録を行ってください。

平成 24 年以降の手術症例からは本会の病歴抄録の登録を終了し、NCD への登録に一本化して、外科専門医取得のために必要なデータは NCD から抽出する予定です。したがって、本会と NCD の双方に並行して登録するのは平成 23 年 12 月までの手術症例となります。

なお、平成 22 年 12 月 31 日までにを行った手術症例については、NCD に登録することができませんので、従来どおり、速やかに本会に病歴抄録として登録してください。

NCD 登録方法などの詳細については、NCD のホームページなどを参照してください。

以上をまとめると、次のようになります。

○平成 22 年 12 月 31 日までの手術症例

本会の病歴抄録として速やかに登録してください。

平成 23 年 12 月 31 日以降は登録できなくなる予定です。

○平成 23 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの手術症例

本会の病歴抄録と、NCD の双方に登録してください。

○平成 24 年 1 月 1 日からの手術症例

NCD のみの登録となる予定です。」

このように、NCD のシステムに不具合などが生じた場合の保険という意味合いで、平成 23 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの手術症例は、本会と NCD の双方に登録してもら

いました。

しかし、NCD の稼働から約 1 年が経過し、その間に特段の問題は発生しておらず、NCD のシステムに不備はないことが判りましたので、理事会の審議の結果、平成 23 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの手術症例も NCD の登録に限定する方針が決定いたしましたので、改めて公告いたします。

つまり、平成 23 年 1 月 1 日以降の手術症例から NCD への登録に一本化し、外科専門医取得のために必要なデータは NCD から抽出しますので、本会の病歴抄録としての登録は無用となります。

なお、平成 23 年中の手術症例を NCD のデータベースに登録できるのは、平成 24 年 3 月末日が期限となりますので、ご注意ください。その他、NCD の登録にあたって不明な点などがございましたら、NCD 事務局に直接お尋ねください。

一般社団法人 National Clinical Database 事務局

<http://www.ncd.or.jp/>

E-Mail : office@ncd-core.jp

また、平成 22 年 12 月 31 日までの手術症例は、従来どおり 本会の病歴抄録として登録してもらいますが、この登録期限を平成 24 年 12 月 31 日とすることも決定いたしました。平成 25 年以降は本会の病歴抄録登録システムをすべてクローズしますので、併せてご注意ください。

*** 外科専門医向け周知文（外科専門医更新用）**

平成 23 年 12 月

外科専門医 各位

社団法人日本外科学会
理事長 里見進
専門医制度委員長 椰野正人

【外科専門医の更新手続きに関する重要なお知らせ】

既にご承知のとおり、わが国の手術症例の全件把握を目指す一般社団法人 National Clinical Database (NCD) の設立に伴い、**平成 23 年 1 月 1 日付以降の手術症例については、NCD のデータベースに登録すること**になっております。

そこで、理事会の審議の結果、平成 24 年度の外科専門医の更新手続きから、手術症例の提出（5 年間で 100 例以上の手術に従事）を義務付けるにあたり、**平成 23 年 1 月 1 日付以降の手術症例については、NCD のデータベースからの抽出・活用に一本化する**ということが決定いたしました。

つまり、以下のとおりとなります。

○平成 22 年 12 月 31 日までの手術症例

更新申請時に、本会所定のフォームに登録（記入）し、本会に直接提出していただきます。登録（記入）項目は、「病名」「術式名」「術者／助手の別」「実施年月日」「施設名」で、当該施設長または指導責任者の確認印が必要となります。

○平成 23 年 1 月 1 日からの手術症例

NCD のデータベースから抽出しますので、NCD に登録してください。本会に直接提出することはできません。

方針の決定が遅れ、ご迷惑をお掛けいたしました。あらかじめお知らせいたしますので、何卒ご了承ください。

平成 24 年度の外科専門医更新業務に関する詳細な事項は別頁のとおりです。また、平成 24 年度の更新該当者には、平成 24 年春頃にダイレクトメールをお届けいたしますので、ご確認ください。

なお、**平成 23 年中の手術症例を NCD のデータベースに登録できるのは、平成 24 年 3 月末日が期限**となりますので、ご注意ください。また、NCD の登録においては、診療施設

の規模などは一切不問です。その他、NCDの登録にあたって不明な点などがございましたら、NCD事務局に直接お尋ねください。

一般社団法人 National Clinical Database 事務局
<http://www.ncd.or.jp/>
E-Mail : office@ncd-core.jp

1) 外科関連専門医制度委員会

委員長 兼 松 隆 之

平成 23 年 8 月 2 日に第 48 回総会を開催した。

1. 一般社団法人 National Clinical Database (NCD) の事業の進捗状況と、外科系各学会・団体の NCD 対応の進捗状況を確認した上で、各専門医制度の業務の実施にあたっては NCD を利用するという方針を改めて合意した。
2. NCD には本委員会に正式加盟してもらうこととした。
3. 厚生労働省内に設置された「専門医のあり方に関する検討会」の動向を注視すると共に、ヒアリングに参加した。

2) 社団法人日本専門医制評価・認定機構

副理事長 里 見 進

【社員総会報告】

1. 平成 23 年度第 1 回（平成 23 年 5 月 10 日）
 - ・平成 22 年度事業・決算報告を承認。
 - ・一般社団法人に移行するための新定款を承認（平成 24 年中に申請予定）。
2. 平成 23 年度第 2 回（平成 24 年 2 月 28 日）
 - ・平成 24 年度事業計画・予算書を承認。
 - ・厚生労働省「専門医の在り方に関する検討会」に参加。
 - ・概報を発行。

【平成 24 年度事業計画】

- 1) 社員総会を開催する
- 2) 協議委員会を開催する
- 3) 理事会を開催する
- 4) 役員改選を行う。
- 5) 総務・財務委員会、広報委員会、専門医制度評価委員会、専門医の広告に関する委員会、研修施設委員会を開催する
- 6) 新公益法人法に基づく新法人への移行を行う
- 7) 第三者機関検討委員会活動を支援する
- 8) 事務連絡会議を開催する
- 9) 厚生労働省、日本医師会、日本医学会ならびに各種団体との連携を計る
- 10) 専門医・専門医制度・専門医研修施設に関する調査を実施する
- 11) 専門医罰則規定の統一基準を作成する
- 12) 各診療領域における専門医に関する調査研究を実施する
- 13) 専門医制度整備指針を発行する

- 14) 専門医研修施設整備指針を作成する
- 15) 日本専門医概報を発行する
- 16) 日本専門医便覧を刊行する
- 17) 機構ニュースを発行する
- 18) ホームページの充実をはかり、広く情報の公開を行う
- 19) 新規加盟希望学会の入社認定作業を行う
- 20) 寄附金の募集を行う
- 21) 専門医フォーラムを開催する
- 22) その他必要な事業を行う

【その他】

- ・平成24年1月26日に第3回市民健康フォーラムが開催された（於：東京国際フォーラム）。
- ・研修施設の訪問調査（サイトビジット）を試験的に実施中である（本会も協力）。
- ・厚生労働科学研究補助金を受けて「平成23年度各診療領域における専門医に関する調査研究」を実施中。

【分担金】

平成23年度分の本会分担金は415万1,500円であった。平成24年度分は426万2,000円である（いずれも会費20万円を含む）。

4. 専門医認定委員会・予備試験委員会

委員長 榎野 正人

1. 平成23年度予備試験（筆記試験）について

第6回目の外科専門医予備試験（筆記試験）を施行した。申請者は1,123名であったが、このうち34名が期日までに所定の手続きを完了しなかったため、受験の意思がないものと見做した。したがって、1,089名を対象として、8月28日に「大阪国際会議場」で予備試験（筆記試験）を実施したところ、実際は1,085名が受験した（欠席者は4名）。

9月28日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果（外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第10条により、公開しない）、885名を合格と判定した（合格率：81.6%、合格最低正答率：63.0%）。なお、識別指数がマイナス値（正答率：67.6%、識別指数：-0.03）となった1問を不適切問題とし、この問題に不正解であれば採点対象から除外し、正解であれば除外せずに正答として判定を行った。

合格者氏名は、申請者数、受験者数、不合格者数、合格率、および今回出題した問題のうちの代表的な数問（各分野から1問ずつ）とともに雑誌第112巻第6号に公表した。

出題した問題は試験問題検討委員会が作成したものの中から本委員会が選定し、承認したものである。

2. 平成23年度認定試験（面接試験）について

第5回目の外科専門医認定試験（面接試験）を施行した。申請者は806名であったが、このうち2名が期日までに所定の手続きを完了しなかったため、受験の意思がないものと見做した。したがって、804名を対象として、11月6日に「京王プラザホテル」で認定試験（面接試験）を実施したところ、実際は801名が受験した（欠席者は3名）。

11月15日付文書で持ち回り委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果(外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第37条第1項により、公開しない)、800名を合格と判定した。合格者氏名は、申請者数、受験者数とともに雑誌第113巻第1号および第2号に公表した。

本年も事前に無作為に抽出した8名を対象に現地調査を行ったところ、調査後に対象者1名より受験辞退の申し出があり、確認の上で辞退を認めたが(欠席扱い)、それ以外は特に問題がなかった。

3. 平成23年度外科専門医更新認定業務について

例年通り取得から5年が経過した外科専門医の更新認定業務を行った。本年度の対象者は平成18年度に移行・特例措置で取得した1,649名であった。対象者のうち、1,557名からの申請があったが、そのうち6名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は1,551名であった。

9月28日の委員会で審議を行った結果、1名を不合格とし、1,550名の更新を認めた。本年度合格者氏名は、雑誌第112巻第6号に公表した。

4. 平成23年度外科専門医特例更新業務について

本年度の対象者は262名(平成21年度失効:112名、平成22年度失効150名)であり、対象者のうち71名(平成21年度:20名、平成22年度:51名)から申請があった。

9月28日の委員会で審議を行った結果、1名(平成21年度失効者)を不合格とし、69名の特例更新を認めた。本年度合格者氏名は、雑誌第112巻第6号に公表した。

なお、特例更新は外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第18条第2項により、平成25年度まで実施する。

5. 平成23年度認定登録医暫定登録業務について

旧来の本会認定医が研修実績(30単位)を満たすことにより認定登録医に移行できる暫定登録業務を実施した。本年度は271名からの申請があった。

9月28日の委員会で審議を行った結果、271名全員の登録を認めた。本年度登録者氏名は、雑誌第112巻第6号に公表した。

なお、暫定登録は外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第22条により、来年度(平成24年度)で終了する。

6. 日程について

今年の日程、および会場は以下のとおりである。

- ・ 予備試験(筆記試験) … 日時: 8月26日(日) 13時~16時
会場: 国立京都国際会館(京都市左京区)
- ・ 認定試験(面接試験) … 日時: 11月4日(日)
会場: 京王プラザホテル(東京都新宿区)

7. その他

来年度(平成24年度)から、外科専門医更新条件として、従来の研修実績(30単位)の他に手術症例(100例)が追加される。これに伴い、手術症例を満たせない場合は、外科専門医から認定登録医へ移行することとなる。この認定登録医取得者は手術症例(直近5年で100例)の提出により、外科専門医へ再び移行できる。

また、サブスペシャリティ外科専門医(消化器外科専門医、心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医)取得者は、サブスペシャリティ外科専門医が有効である限り外科専門医も有効となり、別途外科専門医の更新手続きを行うことは不要となる。更に、留学、出産・育児など、本会の定める理由により、原則2年間までの更新猶予を認められることができる。